

## 私の留学体験記

広島県立西条農業高校学校 2年 西田 優南 (にしだ ゆな)

留学期間 令和5年10月6日 ~ 令和5年10月17日 (12日間)

留学先 ラザロ・スパランツァーニ高校 (モデナ、イタリア)

私は10月6日から10月17日の12日間、イタリアのラザロ・スパランツァーニ高校とモンツァラロ高校、ボローニャ大学で研修を行いました。自分にとって初めての研修でありコロナ禍後ということもあり、とても不安で緊張しました。しかし、イタリアのホストファミリーやその周りの人に良くしてもらい、だんだんと緊張がほだけていきました。研修を終えた今では、今回の研修に参加して本当に良かったと思える研修になったと思います。

8日にボローニャの食のテーマパークである FICO に行きました。食べ物の展示や牛や山羊を育てていて、アトラクション一つひとつに食べ物を学べる要素がありました。その後、ラザロ・スパランツァーニ高校に到着し、ホストファミリーに迎えられ歓迎を受けました。次の日は、ボローニャに行くためイタリアのホスト生徒に連れられ電車に乗り大学の授業を受けました。私がこの時驚いたことがあります。イタリアの講義では、先生が生徒にすごく語り掛けようという迫力があり、聞いている側もとても聞こうという思いになりました。また、地域のブランドを大切にしている、それに自信があることがわかりました。また、農業規模は日本より大きくアメリカより小さいという感じで、デジタルをどんどん使うところもあればあまりそうでもないところがあることを知りました。モンツァラロ高校では、ラベンダー畑や養蜂で温度の差が朝と昼でありすぎて花が咲くのが遅く、ミツバチの数が減っていることが問題でした。日本でもこの数が減っているの、これは世界共通で問題であるのがわかりました。ラザロ・スパランツァーニでは日本のふじを育てており、それは育て方が違うのかリンゴの大きさが小さくてみずみずしかったです。また、パルミジャーノ・レッジャーノチーズを作っており、その規定は厳しく、少しでも発酵にバラツキがあると失格になってしまいます。ラザロ・スパランツァーニ高校はその厳しい規定をクリアしている地域で唯一の学校です。イタリアの生徒と研究発表交流では、イタリアからは牛の出すメタンの問題を、私たちは先輩の課題研究である「宇宙農業の根粒菌による窒素固定」について発表しました。

私は、このイタリア留学で、日本での授業や農業への意識の違い、海外からの日本はどのように見られているのかがわかりました。これを生かして学校での課題研究に取組みたいと思います。

